

市長定例記者会見（令和5年4月28日）録

11時30分～11時50分

定例記者会見を始めさせていただきますが、まずもって先の23日に行われました高松市長選挙におきまして、私は5回目の当選を果たすことができました。これもひとえに市民の皆様の御支持御支援のおかげということ厚く御礼申し上げたいと存じます。また、市政記者クラブの皆さま方には改めて定例会見などで行政情報の発信等につきましてお世話になるということになりますけれども、どうぞよろしくお願いをいたしたいと存じます。

本日は題材に入ります前にこれから5期目ということになりますけれども、それに向けた決意でありますとか、あるいは速やかに取り組んでいきたい取組みなどにつきまして、少しお話をさせていただきたいと存じます。

まずこの度の選挙選ですが、5回目の選挙ということでもございましたけれども、実質私にとりまして本格的な選挙戦は初めてであったということでもございます。そういう意味でいろんな不安な部分、手探りな部分もございましたが、7日間という短い選挙期間中ではございましたが、多くの市民の皆さまとお会いでき、また市内各地を巡ることができ、私の思い、あるいは政策を訴えてきたところでございます。

市民の皆さまからはコロナ禍、物価高騰などの影響による厳しい状況を訴えるような声も聞こえましたし、また、一方で未来の高松市への期待など、今後のまちづくりに対する市民の皆さまのご期待が非常に大きいものといった反応も見られたところでございます。

それと同時にこうした皆さまの思いをしっかりと受け止めて、これまでも増して誠心誠意、市長としての責務を果たし、ご期待に精一杯お応えしていかなければならないということでも決意も新たにいたしておるという状況でございます。

直近の4期目を振り返ってみたいと思いますけれども、後半3年間は大半が新型コロナウイルス感染症の感染拡大への対応を追われた期間であったと思っております。また、ロシアのウクライナ侵攻というとんでもない事態も起こったわけでもございまして、不安定な国際情勢や、これらをきっかけとした原油高・物価高騰などが起こり、これまで経験したことがないことの連続の時期であったと思っ

ております。こうした中でも、市民の皆様の健康や生活を守る対策を講じるという
ことで、デジタル技術の活用や観光高松復活に向けた受入態勢の整備など、新
しい時代に向けた取組も着実に進めていくことができたというふうに考えており
ます。

4期目につきましては、マニフェスト2019でお示しをしておりました、
「老若男女の笑顔が輝く元気な高松の創生」をテーマにした「6つのまちづく
り」に取り組んでまいったというところでございます。

私といたしましては、屋島山上交流拠点施設「やしまーる」オープンや、こと
でん「伏石駅」の新規開業など、まちづくりの骨格となるような基盤整備を着実
に進められたとっております。また4期目におきまして、こども医療費の無償
化対象を中学生まで拡充する、人口減少を見据えた施策も展開でき、一応の手ご
たえは感じておるところでございます。

その延長線上に今回5期目を迎えるということでございます。これまでの成果の
上に立ちながら、引き続き、新たなマニフェスト2023を示させていただいて
おりますが、そのテーマが「夢と誇りが持てる世界都市・高松」を目指してと
いうものでございます。特に「住みやすい、働きやすい、子育てしやすい」の三
拍子で「選ばれるまち」をすすめたいということ、これを始めとする7つの政策
を掲げております。その7つの政策をもとに、77の施策を位置づけさせていた
だいたマニフェスト2023、これを示させていただいておりますので、これの
実現といったものを1番の大きな目標としてやってまいりたいと思っておいま
す。

また、全国的に、本格的な人口減少、少子・超高齢化が急速に進んでいるとこ
ろでございます。また、コロナとの共生、いわゆるウィズコロナが本格化すると
いうことでございまして、コロナで疲弊した社会経済の立て直しを図りながら、
子育て施策や観光振興施策に特に注力しながら、本市のにぎわいが復活するよう
に、全力で取り組んでまいりたいと存じます。

また、現在本市におきましては、サンポート高松エリア地区におきまして、香
川県立アリーナを始めとして、新駅ビル、このほど「タカマツ オルネ」という
名前がつけられたようですが、「タカマツ オルネ」や、大学の高松駅前キャン
パス、外資系ホテルの整備が計画をされているところでございます。着工計画を

されているとことをごさいます。さらには、2025年には「大阪・関西万博」が開催をされます。ちょうどその年は次の瀬戸内国際芸術祭の予定されている年でございますので、万博の人の流れをこのサンポートエリアを中心とした、高松中心部に呼び込むことで、賑わいの復活と共に高松の都市ブランドの発信を考えたい、それにより新たな高松の発展につなげてまいりたいというふうに考えております。

私といたしましては、本市が輝きを失わず持続可能なまちとして飛躍発展を遂げるべく、私自らが先頭にたち、市民の皆さまの声に耳を傾けながら、夢と誇りが持てる世界都市たかまつを目指しまして、全力で取り組んでまいりたいと考えております。引き続き、4年間、皆様方の御協力をよろしく願いいたしたいと存じます。

それから昨日、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5月8日から季節性インフルエンザなどと同じ、コロナの位置づけが5類に移行することが正式に決まったということをごさいます。また、明日からはちょうどゴールデンウィークが始まるということをごさいますので、本格的な行楽シーズンを迎えるということになります。市民の皆さまを始め、多くの観光客の皆さまに高松市内の観光地に実際に足を運んでいただきながらイベントや瀬戸内海、また屋島など、豊かな自然を目や心で楽しんで、本市のおいしいもの、あるいは特産的なものを味わっていただくなど、五感で高松の魅力をぜひとも堪能していただきたいというふうに思っております。

市内観光地では感染対策等もそれぞれしっかり取り組んでいるということをごさいますし、皆様には個々の感染対策を注意していただきながら市内の観光地巡りなど、ゴールデンウィークを楽しんでいただければと思っております。

それでは、題材に入らせていただきます。

スライドをご覧ください。本日は、「飼い犬・飼い猫のマイクロチップ装着推進事業の実施」と「高松市貨物自動車運送事業者緊急支援給付金」の2件について、御報告させていただきます。

まず、はじめに、犬や猫の殺処分数の減少などを推進するため、飼い犬や飼い猫へのマイクロチップ装着に対する補助事業を実施いたします。

ご承知の通り、本市は、犬猫の殺処分率が全国の中核市で、ワースト上位であり、特に犬の殺処分率については、ワースト1位という悪い状況が続いております。

このような状況を改善するために、クラウドファンディングを活用した、猫の不妊去勢手術支援事業を始め、さぬき動物愛護センター「しっぽの森」における譲渡促進事業などに取り組んでおります。

飼い犬や飼い猫へのマイクロチップの装着は、令和4年6月から、法改正により努力義務となっております。従いまして、今回、新たに、飼い犬や飼い猫へのマイクロチップの装着費用を促進しようということで、1頭あたり上限1,500円の補助を行ってまいりたいと思っております。

また、現在、飼い犬・飼い猫の不妊去勢手術費用に対し、上限3,000円の補助を実施しておりますが、マイクロチップの装着を推進していくため、5月1日から、マイクロチップの装着を補助要件、不妊去勢手術の補助をするためにはマイクロチップの装着を要件にするというものでございますが、従いまして、今後、不妊去勢手術を行う場合には、マイクロチップの装着をされていない場合は、それも併せて実施いただきますようお願いいたします。

申請の受付は、令和5年6月1日（木）から開始いたします。パソコンやスマートフォンから手続きできますので、御利用いただければと存じます。

今後とも、動物愛護の啓発や、犬猫の譲渡を推進するなど、かけがえのない命を守る取組を進めてまいりますので、皆さまの御協力をお願いいたします。

2つ目は、原油価格・物価高騰等の影響により、厳しい経営状況に置かれている貨物自動車運送事業者に対し、給付金を支給するものでございます。

対象となる運送事業者は、一般貨物自動車や特定貨物自動車などの運送事業を営む、市内に本社か営業所がある、法人又は市内に営業所を有する個人事業主でございます。

給付対象となる車両は、資料に記載しておりますように、事業用に登録して使用する普通貨物自動車を始め、小型貨物自動車や軽貨物自動車でございますが、給付額は、1台当たり、普通貨物自動車が2万5千円、小型貨物自動車が2万円、軽貨物自動車が1万円でございます。

申請期間は、5月1日（月）から6月30日（金）まででございます。対象となる運送事業者に対しましては本日（28日（金））に申請書などを郵送いたしております。

貨物輸送の、安定的な維持に向け、取り組んでまいりたいと存じます。

【記者質問】

【記者】

市長選挙で5期目の当選を果たしたが、市政運営に対する考えは

【市長】

4期目は、ほとんどの期間がコロナ対応に追われてしまい、思い描いていた政策展開ができなかったと感じております。

5期目は、ウィズコロナ、ポストコロナの本格化に合わせて、新しいまちづくりの方向性を打ち出して取り組んでまいりたいと存じます。

まずは、コロナで傷ついた社会経済の立て直しや、地域コミュニティの再生、また、本格的な超高齢社会を見据えて、高齢者の居場所づくりの再構築など、地域共生社会の実現にも取り組んでまいりたいと存じます。

また、子育て支援施策は、特に力を入れて、子ども食堂の支援の充実を図るとともに、高校生までの医療費無償化や小中学校の給食費の一部無償化の実施についても検討してまいりたいと存じます。

さらに、観光振興についても、現在少しずつ観光客戻ってきておりますけれども、これを本格的に回復させてまいりたいと思っております。

サンポート地区に大型施設が2025年前後にオープンいたします。これに大阪・関西万博と瀬戸内国際芸術祭の開催が重なりますので、賑わいをより呼び込んで高松の活性化に大いに資するような展開を考えていきたいと思っております。

特に県と連携しながら、サンポート地区の再整備や、塩江地区の道の駅エリアの再整備など、都市としての魅力だけでなく、歴史ある観光地としての高松の魅力を内外に伝えながら、いわゆる高松のブランド力を高めていく大きなきっかけにしたいと存じます。

【記者】

新型コロナウイルス感染症が5類に移行するが、市の医療体制の状況は

【市長】

受け入れ体制についてはある程度余裕を持ってとまでは言いませんが、確実に入院治療等が行える体制は施されていると思っています。

5類に移行しますと一般病棟と同じになっていきますので、国や県の指導も受けながらきちっと体制齟齬のないように整備してまいりたいと思っています。医師会等の協力も得ながら、打合せ等十分にやりながら進めてまいりたいと思っています。

【記者】

新型コロナウイルス感染症の5類移行で市の施策にどのような効果があると考えられるのか

【市長】

5類移行になったからといってウイルス自体が変化する、全く害がなくなるというものではありませんので、基本的な感染対策は個々の判断ということでございますけれども、やっぱりしっかりやっていただくように市としても呼びかけていく必要はあると思っています。

ワクチン接種等についても国の基準で65歳以上の方は春と秋と年2回の実施という形になるということで引き続き無料でワクチンを受けれるということにもなりますので、国の方針等に従った上で県と十分に相談をしながら齟齬のないような形で移行できるように考えてまいりたいと思っています。

【記者】

新型コロナウイルス感染症の5類移行により、観光面などで良い効果が出ると考えられるものは

【市長】

5類に移行するという事は季節性インフルエンザと同じなので、今までインフルエンザ対策で行いながらいろんなイベントや行事を実施してきたと、それと同じような形になるということで、基本的な感染対策はお願いしながらということになります。イベント等においては従来通りの実施ということでいけるということですので、地域の活性化という意味ではいろんな行事が復活できるというふうなことでいけると思います。

特に私が考えておりますのは、高齢者がひきこもりがちになってきて、高齢者の居場所づくり事業がかなり縮小しておりますので、大きく言えばコミュニティの再生、その辺の事業について再び復活できるように力を入れていきたいと思っておりますし、高齢者の居場所づくり事業なんかもより再構築ができる形で、地域に呼びかけてまいりたいと思っております。

【記者】

5期目のマニフェストで、どの政策から優先して着手していくのか

【市長】

優先的にはコミュニティの再生、子ども子育て施策の充実、あるいは子ども医療費の無償化を高校生まで引き上げるというような公約もしておりますので、その辺についての予算の手当て、条例の手当て等についてはできるだけ議会とも相談をしながら早期に実施できるよう考えてまいりたいと思っております。

【記者】

6月議会から取り組もうと考えている事業はあるのか

【市長】

それについては今から整理をしたいと思っておりますけれども、国の方の低所得者対策を実施しなければなりませんので、その辺について一部専決処分を実施するというのもございますし、議会についても6月議会にかけるのかどうするのか、その辺は相談をしながらやっていきたいと思っております。

【記者】

選挙戦で市民の信任を得て当選したが、5期目では市民とどのように向き合っ
て施策を進めていくのか

【市長】

選挙戦は7日間だけでしたので、非常に短い期間で、必ずしも多くの方からま
んべんなく意見が聞けたというわけではございませんので、今後のやり方とし
て、総合計画を今年度中に第7次総合計画を作るという機会がありますので、そ
の総合計画の策定にあたって、より多くの幅広い世代の市民の意見をよりいろん
な機会を通じて聞いていくと。それを、計画に反映させていくということを中心
にしながら政策を策定してまいりたいと思っております。

【記者】

5期目にあたって直接市民と対話する機会を設けたいとのことだが、直近でそ
のような機会はあるのか

【市長】

第7次総合計画の策定年度なので、策定するにあたって市民の意見を聞く機
会、特に若者、日頃直接的に意見を聞く機会が少ないような層の意見を聞く機会
といったものは充実してまいりたいと思っております。総合計画の意見交換会、意
見聴取の中で考えていきたいと思っております。

【記者】

第7次総合計画の策定にあたり、市民の声を聴く機会を設ける予定はあるのか

【市長】

制度として、例えば「市長まちかどトーク」という広聴の機会がありますの
で、そういうのをこれまで以上に充実するような形で、これはグループで10人
程度が集まって、そこに市長、私が出かけて行って率直な意見交換をしますよ、

というような会ですけれども、そういう会を充実させる、回数を増やす、ということによってより多くの市民、いろんな各会、各層から聞けるように呼び掛けてしていくことによって、より広い層からの意見を聴取したいと思っております。その辺のイベントを充実していきたいと思っております。

【記者】

チャットGPTのような対話型AIの活用について市はどう考えているのか

【市長】

今、チャットGPTをどのような場面で活用する、というのは具体的に検討していません。情報収集している段階です。